

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531289

研究課題名(和文) キャリア教育推進のための携帯Web活用による知的障害者の学びの共同体の構築と検証

研究課題名(英文) Transition Support with Web Site of Cellular Phone for High School Course Students of Special School for the Mental Retardation

研究代表者

黒田 吉孝 (KURODA, Yoshitaka)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：40111885

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：特別支援学校高等部在籍の知的障害と自閉症の生徒の就労・移行支援と関連させたキャリア教育推進のための携帯Webサイトの可能性について研究をおこなった職業の時間におけるICTの活用について検討した。移行支援コミュニティサイトの構築とその内容についても検討した。携帯Webサイトは、特に、学校を離れる実習中において、さまざまな内容で交流された。先輩からのアドバイスもみられ、また、同輩との交流を通し、悩み・不安の改善、仕事に対する理解・自覚の深まりがみられた。学校における情報機器活用の基礎知識と経験の蓄積等における教師の支援・指導がその基本にあった。

研究成果の概要(英文)：We studied possibilities of the Web site of cellular phone about the career education for the high school course students of special school of mental retardation and autism. Practical use and knowledge of ICT in the class of school were designed and performed by the teachers of the special school. Construction and contents of the Web site of cellular phone for transition support and active exchanges among students were also examined on actual data of students. They left school during the training for the jobs. Especially during this period various contents were exchanged among students and graduates. The advice from graduates and exchanged could make the deepening of the understanding and consciousness to work itself and themselves. The supports and directions of the teachers for the basic knowledge of the information education and practical use in the school, and accumulation of their experiences were most important factors for the facilitations of abilities of students.

研究分野：発達障害

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：知的障害 自閉症スペクトラム キャリア教育 移行支援 携帯Webサイト 情報機器活用 特別支援学校 高等部

## 1. 研究開始当初の背景

生涯教育とコミュニケーション機能の向上等の視点から、障害児童生徒への情報活用能力の育成情報教育の意義と支援の必要性が指摘されることが多い。知的障害者を教育する特別支援学校高等部では、高等学校と同様に普通教科「情報」の内容についてカリキュラムに位置づけ、情報活用能力を実生活に生かせる教育支援方法等を開発しながら、その可能性と有効性について検討が進められてきている。しかしながら、知的障害のある児童生徒の場合、その障害特性から、情報活用能力とその支援方法について未知の所が多い。

われわれは、ここ数年、ポータルサイト構築を目指し、成人期と学齢期の知的障害者の携帯 Web サイトの掲示板等の有用性と困難性について検討をおこなってきた。その中で、一般就労している、知的障害の程度が比較的軽度の人であっても、学校での情報機器の活用についての系統的な教育的支援がなければ、情報機器を使つての仲間や在学生との意味ある情報交流等が困難であること、また、学校での電子掲示板を使った、多地点を結んでの体験交流や複数校による協同作業学習等の「学びの共同体」の経験が、職場実習等での体験交流を情報機器を活用することで円滑にさせ、勤労意識等を高めることを明らかにしてきた。

このような事実は、知的障害児・者へのキャリア教育を推進する上で重要な知見と考える。われわれのこれまでの研究から、情報機器を活用しての、自らの職場実習や就労体験に基づいて、仲間である障害者同士の情報交流や相談に応じるピアカウンセリングも、勤労意識や自己認識等の向上につながると考える。特別支援教育における情報機器の活用については、文部科学省が「教育の情報化ビジョン」(2010)において、各教科や自立支援活動等の指導において、その効果を高めることが

できる点で極めて有用であると述べているが、キャリア教育推進の視点からの情報機器の活用と支援のあり方・方法について研究を進める必要があると考える。また、知的障害だけでなく、自閉症生徒に対する研究も重要と考える。

## 2. 研究の目的

携帯電話 Web サイトの継続運営による生徒の書き込みの蓄積と分析方法適切な分析法を検討する。

- ・テキストマイニングの手法により、高等部生徒の進路・職業に関する生徒の学びの成長を可視化する。

- ・書き込みを教育的に分析し、よりよい移行支援の在り方(学習モデル)を検討する。

電子情報技術( ICT )を活用した移行支援の在り方を考察する。

- ・知的障害のある生徒の電子情報技術( ICT )に関する知識・理解・態度について検討する。

- ・移行支援に活用できる電子情報技術( ICT )について、成果と課題を整理し、教育支援につなげる。

特別支援学校高等部の教科「職業」の内カリキュラムと内容について、授業実践を通して検討する。

- ・移行支援に重点を置いた教科「職業」のカリキュラムと内容を構築する。

- ・電子情報技術( ICT )の学習と連動した授業実践とともに、その評価を行う

移行支援コミュニティサイトの構築とその内容について、高等部生徒の携帯 Web サイトの使用状況を踏まえて検討する。

- ・蓄積した知見を基に、インターネット上の移行支援コミュニティサイトを構築し、その活用結果を踏まえ検討する。

## 3. 研究の方法

移行支援携帯電話 Web サイトの継続運営による生徒と卒業生の書き込みの蓄積をおこなう。また、その分析結果から、支援の課題を検討する。

蓄積したデータからのテキストマイニングの手法による分析とその精度をあげるための方法を検討する。

電子情報技術( ICT )を活用した移行支援の在り方について、知的障害生徒と自閉症生徒にとっての電子情報技術( ICT )に関する知識・理解・態度について分析し、その教育内容を検討。

特別支援学校高等部の教科「職業」のカリキュラムの再構築と授業実践を検証する。

移行支援コミュニティサイトの構築し、その有用性を検討し、卒業後についても、継続支援する方法を考える。

#### 4. 研究成果

##### 高等部生徒の情報機器の活用

Web 掲示板の書き込まれた文章データを TRUSTIA/R.2 でテキストマイニングした。使用された語をリストアップすることにより、携帯電話 web 掲示板の話題を量的に検証した。主題分析は、類似内容の文章を抽出し、分類・関係付けを行った。掲示板で生徒たちは職業生活と学校生活に関する話題をくり返しあげ、「働くこと」「学校生活を送ること」について考えていた。書き込まれた生徒の話題は「働くこと」を中心に生活全般に広がりが見られた。本携帯電話 Web 掲示板システムは高等部の教科「職業」、とりわけ現場実習を「共有の学び」として深め、生徒の学習を支援できた。また、テキストマイニング手法を利用することでその学習状況を可視化でき、生徒の学びをはかる有効なツールとなりえた。

自閉症スペクトラム生徒が web 掲示板への書き込みを通じて、自己肯定感を高めた過程を明らかにした。対象生徒は、自尊心の低下による不安感の高まりが、さらなる失敗経験となる悪循環に陥っていると考えられ、他者からの賞賛による成功体験の積み重ねと、「今の自分で良いのだ」という他者からの承認が重要と考え、掲示板への書き込みを活用した。学習のねらいは、先輩からのアドバイスや承認を受け入れ、自己受容でき、自己肯定感を高められる、とした。掲示板の中で対象生徒は、コミュニケーションに対する不安について、全書き込み数 274 の内 11 回書いているが、内 5 回に「不安」もしくは「困っています」「どうしたらよいですか」という語彙が登場する。しかし書き込みを続けるうちに、『先輩も自分と同じだったんだ』ということ『注

意をされたことはあったが、それは悪かったことで、今はそのことをわかっており、成長したと感じている』ことを書いた。これは、他者からの承認を受け入れている点、自分の成長を感じている点で、自尊心の中の他者からの受容感や自己成長感を持っているといえる。

##### ICT を活用した移行支援

Web 掲示板サイトをサポートする教員が書き込みに参加し、その結果書き込まれた内容を座学の授業で取り上げたことにより、働く意義についての理解が促進されたことを明らかにすることを目的とした。1 回目の授業では、実習に行く時、気をつけることについて、2 回目の授業では、働いている人と学生の生活の違いについて、3 回目の授業では、働いていて嬉しいとき(やりがい)について、学習を行った。

2 回目の授業後「残業があったり休日出勤があったりして大変そうだ。」3 回目の授業後「仕事をやればやるほど良い事もあるんだなと思いました。」などの回答が得られた。個々に理解が促進したといえる。一方書き込みになれている卒業生に取っては、以下の書き込みのように携帯 web 掲示板がピアカウンセリングの場になっている事も明らかになった。

##### 移行支援・職業の教育の内容と方法

先輩から学ぶ将来設計と題し、卒業後の自分について具体的なイメージを高め、目標に向かって意欲的に現場実習や生活に向かう態度を培うことをねらいとした。卒業を目前にして、現場実習に対してモチベーションが上がらない点について重視し、学んでほしい内容について意図的に質問を投げかけ、先輩に答えてもらうことにより、学んでもらいたいと考えたからである。先輩の皆さんは、働いていて嬉しいときは、どんなときですか、等の質問を行った。その結果、先輩の応答の

中から、働くことの大変さと同時に、働くことによって得られるものがある事、そしてそれを楽しみにして先輩達が働いていること等に気づかせることができた。携帯 web 掲示板を利用して、具体的に先輩の書き込みから学ぶことができたといえる。

また、知的障害者を教育する特別支援学校高等部の教科「職業」のカリキュラムの再構築と授業実践・移行支援に重点を置いた教科「職業」のカリキュラムを構築を行った。一般就労を目指すクラスでは、集団就労体験学習を年間を通して行うカリキュラムとして位置づけ、定着をはかった。また、福祉的就労を目指すクラスでは、地域の職場訪問や先輩の通所する事業所訪問などのキャリア教育を柱にしながら、実際の作業学習と平行して授業を進めるカリキュラムの策定・定着をはかった。また、生活介護型事業所での就労を目指すグループでは、短時間でも集中できる環境整備を進め、見通しの持ちやすさを重視しながら、ふりかけ作りの食品加工作業による学習カリキュラムの定着をはかった。

#### 移行支援のコミュニティサイトの構築

情報モラル育成コンテンツを掲載したサイトの構築はできなかったが、携帯 web サイトの活用が日常化し、主に卒業生において自発的・共同的な学習機会の提供ができた。コンテンツ掲載をしなかった理由として、情報モラルに関わる学習内容は多義に渡り、web ベースで学ぶには限界があるからである。また、web コンテンツとしては、既存のものもあり、それらを利用した教室での座学での学びが有効であったことから、今回の研究では web コンテンツの作成を見送った。

本研究で使用した携帯 web 掲示板では、ID とパスワードでユーザーを認識するが、書き込んだ内容は登録している携帯電話に届くように設定されている。そのため、web 掲示板を見に行かなくても内容を知ることがで

きる。これは、セキュリティに配慮しつつも内容を簡単に閲覧できる仕組みである。この仕組みにより、ユーザーは内容を簡易に知ることができるため、読むだけで掲示板を見に行かない人も増えた。このことは、書き込みが減る原因となったが、逆に読んでいることで、友達や先輩の動向を知ることができ、安心していても言える。このような仕組みはメーリングリストと同等である。つまり、ポータルサイト構築を最終目的としていたが、そこまでの情報は実際には必要なく、メーリングリストで十分な協働の学びができるのかもしれない。ただし、掲示板の良さは、書き込みの内容を、一覧で見渡すことができる点である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

黒田吉孝,石部和人,大杉成喜(2011)高等部自閉症生徒の携帯 Web サイト活用による職場実習を中心にした「学びの共同体」への参加と交流の特徴, 滋賀大学教育学部附属実践総合センター紀要,20,17-24.

石部和人,大杉成喜,黒田吉孝(2012)携帯電話 Web 掲示板サイトを活用した就労・移行支援に関する一考察, 滋賀大学教育学部附属実践総合センター紀要,21, .

黒田吉孝,石部和人,大杉成喜(2012)高等部生徒、ならびに卒業生の携帯 Web サイト活用による職場実習と仕事にかかわる「学びの共同体」への参加と交流の特徴ならびにその意義, 滋賀大学教育学部附属実践総合センター紀要,21,65-71.

大杉成喜(2012)知的障害特別支援学校高等部生徒の移行教育・進学に関する一考察: 移行支援 Web 掲示板の記述を追って, 熊本大学教育実践研究 30, 93-101, 2013-02-28

黒田吉孝(2013)自閉症スペクトラムの特

性理解の新たな視点, 滋賀大学教育学部紀要, 63, 87-95.

〔学会発表〕(計 4件)

大杉成喜, 石部和人, 黒田吉孝(2011)  
携帯電話 Web サイトを活用した高等部現場実習の支援 現場実習・就労移行支援の実践 3年次の報告 日本特殊教育学会第 49 回大会発表論文集, 690.

大杉成喜, 石部和人(2011)  
携帯電話 Web 掲示板システムによる就労・移行支援 高等部 3年間の生徒の成長を追って 日本教育情報学会年会論文集, 27, 194-197.

石部和人, 大杉成喜, 黒田吉孝(2012)  
21E3 携帯電話 Web 掲示板サイトを活用した就労・移行支援に関する一考察 日本教育情報学会年会論文集 (28), 320-323, 2012-08-25

大杉成喜, 石部和人, 黒田吉孝(2012)  
携帯電話 Web サイトを活用した移行・就労支援 4年次の報告と一般就労青年の記述の変容 日本特殊教育学会第 50 回大会 プログラム・発表論文集, P1-D-7.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 吉孝 (KURODA, Yoshitaka)  
滋賀大学・教育学部・教授  
研究者番号：40111885

(2) 研究分担者

大杉 成喜 (OSUGI, Naruki)  
熊本大学・教育学部・講師  
研究者番号：10332173

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：